



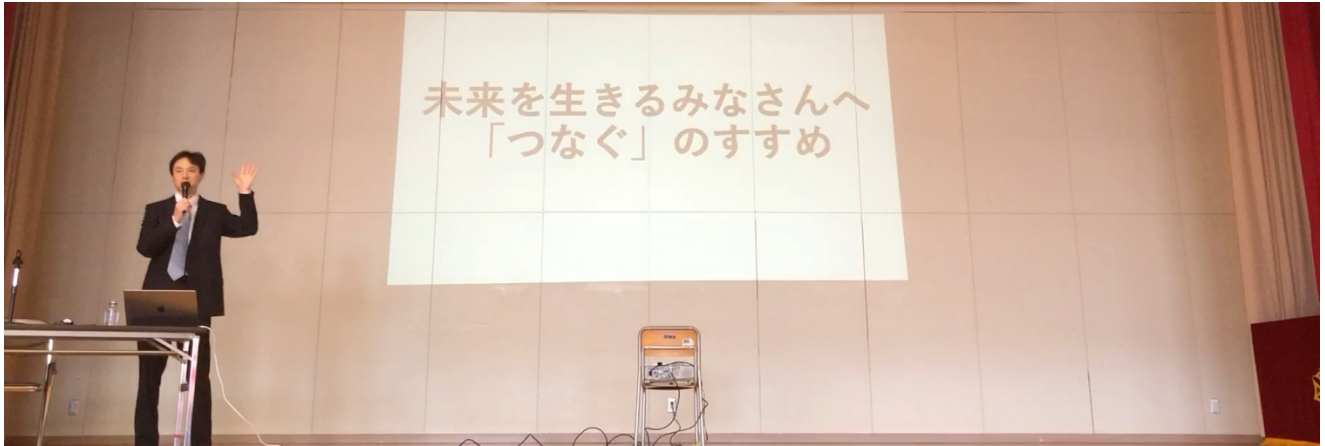
校報 あずまね

<https://shiwa3.chu.jp>

時間啄啖

文責 佐藤智一

心に残る 高田英行先生の創立 60 周年記念講演



当日お招きできなかった保護者や地域の皆さんにもお聞かせしたかった、心に残るご講演でした。ここに要旨を紹介いたします。54分弱の記録映像（11月末日まで期間限定配信中）は、学校ウェブサイトをご覧ください。

◆ これから皆さんが生きていく世界は、意外な組み合わせをつないで今までなかったものを形にして前に進んでいく世界。

- ヒューチャー・デザイン…何かを決めるとき、相談するグループの中に仮想的に将来の人を入れる考え方。
 - ◇ 未来はみなさんが変えられる。
 - ◇ どこかで誰かが見ている。

◆ 学問と学問をつなぐ

- 学問というのは、世の中のあらゆることや現象について論理的に解明しようという試み。何故そんなことをするのか？それは、**知りたいから**。
- 長い歴史の中で、知識をためていって、あとから使いやすいように整理しておいたものが学問。
- 最初に学び始める人のために交通整理してくれているのが、学校で学ぶ教科。しかし、何かを解明しようとする、いろいろなものが絡み合っている、**どこかのタイミングで教科の枠組みから脱皮しなければならない**。

◆ 学問と仕事をつなぐ

- より良いものをつくり出すため、人工知能を使ってよく出来た時のデータを活用する。しかし、それにも限界があり、どうしてもうまく出来ないこともある。**人間がやるべきことは、データ化出来ないところを見ること**。

◆ 芸術と学問をつなぐ

- 「サウンド・オブ・生花」飛行機で急上昇した後にエンジンを切って急降下させることで微小重力の状態を作り、薄いゴムの膜に乗せた絵の具に下から音で振動を加え、絵の具を数十センチ跳び上げさせ、高速度カメラで撮影したものの、**最新の技術と芸術という組み合わせによって、新しい価値が創造された**。

◆ 未来を生きるみなさんへのメッセージ

- 今、学校の勉強が面白いと思っている人は、その先の学問のつながりを想いながら学んでほしい。これから先、もっと面白くなります。
- 今、学校の勉強がつまらないと感じている人も、一つひとつのピースがいつか何かのきっかけでつながる時が来る。その時のために学んでほしい。
- **分からなかったことが分かるようになり、出来なかったことが出来るようになりすれば、未来は変わると思えるようになります。**

◆ 人と人とのつながり

- 26歳から38歳まで働いていた銀行で、上司から「筑波大学の先生と共同研究で何か出来ないか探ってください。」

と言われ、相談に行った。その際、筑波大学の住田 潮先生から「学位を取りに私のところに来ないか」と言われた。私自身も「このテーマで論文を書けば博士号を取れるかもしれない」と考えていたことがあったので、すぐに働きながら筑波大学の大学院に入学することを決めた。この人のおかげで、自分の運命が動き出した。そこで私が学んだことは、「自分を見てくれている人がどこかにいる。だから腐るな。」ということ。

- Simone Farinelli（スイス連邦工科大学）が数理ファイナンスを確率論と金融論に加えて幾何学の視点で見た論文に興味を持ち、私は「これが理解出来たらいろんなことが分かるようになるから、これは絶対に理解したい。」と思った。そこで、調べても考えても分からないことが出て来る度に、彼に何度も質問の電子メールを送り、2年かけてようやく内容を理解することが出来た。そうしたら本人から、「そんなに興味があるのなら一緒に共同研究をしないか？」と誘いを受け、即刻承諾し、それから5つくらいの論文を共同執筆した。この人と一緒に研究して学んだことは、「『本気』は伝わる。」ということ。彼への質問メールは10回を超え、その過程で「何としてもわかりたいんだ」という気持ちが伝わったのだと思う。

◆ 才能って何だろう？

- 2人のような高名な学者でも分からずに悩んでいる姿があった。しかし、しばらくしてから「こうではないか！」という考えを出して来る。1ヶ月か2ヶ月も経ってから「わかったぞ！」と言われ、「この人はまだずっとそのことを考えていたのか！」とすごく驚かされた。
- ラッキー池田とSAM。この2人が雑誌の対談で、「ダンスの世界で生き残ることが出来たのは何故なのか」を話し合った。「才能か努力か」を議論した結果、結局、「やめなかったこと」で意見が一致した。SAMさんはほぼ日刊イトイ新聞で、「ダンスの能力って、はじめると最初は緩やかに上っていくんですけど、そのうち必ずちょっと停滞するんですよ。そうすると本人も飽きは始めるんだけど、それでも頑張り続けていると、そのあいだに中身が、どんどんどんどん詰まってくわけです。そして、ある日いきなりそれが開花して、ポンッと上手くなる。ダンスの上達ってそういうものですね。ずっと直線でまっすぐ上がっていくじゃなくて、階段状にガンツ、ガンツって登っていく感じです。」と語っています。
- 数学も全く同じです。分からないことは、今でもたくさんある。数週間、あるいは数ヶ月分らなくても、「まだ分からない」状態だと考えればよい。考えることをやめなければ、ある時分かる時が来るかもしれない。
- 「ブラックサンダー」1年に2億本の売り上げがあるお菓子。子供向けに1個30円でBlack Thunderとして売り出すが、さっぱり売れなかった。カタカナ表記に変え、大学生協で売り出したところヒット。北京五輪前に体操の内村航平が「ブラックサンダー好きだ」といったら、爆発的に売り上げが拡大。1994年の販売開始から諦めなかったから、売り続けることが出来た。
- 以前Jリーグ・ベルディ川崎のフィジカルトレーナーだった大学の体育の先生に、「サッカーの世界で成功するかわからないかって、才能ですか、努力ですか？」と訊いてみたら、大分悩んだ末に「努力だろう」と答えた。Jリーグの選手になるまでは、努力と言い切れる。でも日本代表レベルだと、もしかしたら才能かもしれない。おそらく、過酷なトレーニングの成果が細胞につくような遺伝子を持って生まれてきたんだろう。そういう意味での生まれつきの才能もある。サッカーの才能ではない。
- 私もそれなりに努力はしたが、それを努力とってしまうとしんどい。野球のイチローさんがこう言っていた。「努力とされている時点で、そう思っていない奴には勝てない。」私は算数や数学が好きでいっぱい勉強したが、楽しいからやっているだけで、あまり努力している気分ではなかった。その代わり、苦手な科目は努力した。

◆ 夢はどうやって叶えたか？

- 今のところ私が言えるのは、「才能でも努力でもなく、『やめずに続けた』」ということ。私自身は、純粋数学という分野をやりたいかったが、それはすごく難しく、かろうじて応用数学という分野で生き残った。一旦は会社員になり純粋数学を諦めたが、何とか応用数学を使うような職場に潜り込むことが出来たので、少しずつでも数学を続けることが出来ていた。職場に博士号を取るような人たちもいて、こういう道もあるのかと知り、諦めることはなかった。そこから2人の先生と出会い、夢をつないだ。
- 才能とは、もしかしたら実態のない言葉かもしれない。本人ではなく周りの人がそう言っているだけで、諦めないことの方がどうも効いている。有るか無いか分からない才能よりは、努力の方が大切だが、努力するとちょっとしんどくなって来る。だから出来れば、熱中する何かを見つけると、本人は努力している気分じゃなくても、いつの間にか努力したというところに行けると思います。